

Lesson 17 3 Chord Vamp Low

Lesson 17 ロー3コード

今回は (Lesson 15 で学んだ) トリプルストップをオクターブ低い弦 (音域) でやってみるよ。

運指的に少し難しいかもしれないけど、是非やってみて。

まずは E コードを弾くよ。(0:31)

次にこれだ。(A/E コード→TABLATURE Variation 2 参照)

(高い方の) A コードを 1 オクターブ下げたパターンだ。

オクターブや押さえるポジションが違うだけで、構成音は (高い A と) 同じだということを、自分の耳を使ってよく確認してね。

このように積み方の順番が入れ替わる転回形になっても、構成音が同じ以上それは同じコードなんだ。

一番高い音が 5 度のこともあれば、それがトニック、3 度のケースもある。

(訳者注: (高い方の) A コードは主音 (トニック)・3 度・5 度という重ね方だが、この低い A は 3 度・5 度・主音 (トニック) という積み方)

(1:04)

E コードについて言えば、この (オクターブ低い) E の積み方での一番高い音は 3 度 (G#) だ。

一方、高い方の E ではトニック (1 弦開放 E) が一番高い。これについては後程またやるからね。

とにかく、(今回のテーマである Vamp、つまりロー 3 コードを) やってみよう。

-playing(1:17)-

(1:26)

これは、以前 (Lesson 10) で学んだブルースリズムのパターンを発展させたパターンだよ。

要領は同じだ。

(1:50)

その時あまり大きく取り上げなかったけど、そのパターンの時に僕は時折 D 音 (5 弦 5 フレット) を加えてやった。

-playing(1:57)-

実際に僕がこう弾いている (D 音を散りばめる) のを見たことがあると思う。

(ここまでの一連の流れが今回学ぶ Vamp のペースになっている)

(2:10)

(改めて) 今回はまず 3 度 (G#) がトップになった E コードから始まって、次が薬指が 5 弦 4 フレット C#、人差し指が 3 弦と 4 弦の 2 フレットを同時セーハ。初心者にはちょっと押さえにくいかもね。

そして最後がこんな感じだよ (薬指が 5 弦 5 フレット D、人差し指が 3 弦と 4 弦の 4 フレットを同時セーハ)。

-playing(2:48)-

(2:58)

最後のコードはこれ（薬指が5弦5フレットD、中指で3弦と4弦の4フレットを同時セーハ）よりこっち（薬指が5弦5フレットD、人差し指で3弦と4弦の4フレットを同時セーハ）の方が僕は押さえやすいな。

もちろん、やりやすい方法でやってね。

あと、中指を5弦5フレットDにするのもありだね。（人差し指が3弦と4弦の4フレットを同時セーハ）
ゆっくりとやってみよう。

-playing(3:17)-

(3:41)

一つのフレーズを習得するにはそれなりの時間がかかるものだ。

自分にとって難しいと感じたとしても、少し辛抱してやってみるべきだね。

もう一度ゆっくりと、そしてテンポを感じながらやってみるね。

-playing(4:01)-

(4:25)

Miles Davis の”All Blues”の雰囲気だね。

-playing(4:30)-

(4:40)

そして…

-playing(4:41)-

(4:53)

これら3つを使ったVampを手が覚えてしまうまで弾き込むんだ。

6弦開放EをベースにしたE—A—Bmという流れだね。

【注記】

- ・押弦するポイントについてRobbenは様々な言い方をしていますが、ここでは「5弦3フレットC」「6弦開放E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robbenの実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robbenが言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robbenの言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。 翻訳 山岸敦